

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

簿記・流通・観光等の科目を学ぶ商業学科の特性を活かして地域のニーズや社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や社会を支える人材を育成する。

1. 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し、目標達成に向かう自己実現力を育む。
2. 急速に変化する社会の中でも、広い視野を持ち、自らの社会での役割を見出すことができる人材を育成する。
3. 本校で身につけた知識や経験をもとに、様々な困難に立ち向かい、他者を理解し、協働できる寛容な心を育む。
4. 市民や地域の期待に応え、生徒が楽しく、意欲的に学べる環境や取組みの充実した学校をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。

ア 基礎基本の充実をはかり「わかりやすい授業をめざすとともに、商業学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践とICT機器を活用した授業を融合し、教員同士の能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。

イ 授業を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、授業力向上のための、公開授業や校内研究協議を活性化する。

※学校教育自己診断(教員)における「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用されている」の肯定率を、R6年度には60%以上をめざし、毎年5%ずつ引き上げる。

※学校教育自己診断(生徒)における「授業は、わかりやすく楽しい」の肯定率を、R4年度には74%以上をめざし、毎年2%ずつ引き上げる

※基礎学力の定着をめざし、全商簿記検定・全商情報処理検定における3級の取得者を令和4年度1年次での取得者割合を70%とし毎年向上させる。

2 商業教育、観光教育、キャリア教育、道徳心・社会性の育成の推進

(1) 商業教育、観光教育、キャリア教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かし、協働し生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。

ア 「ライフプランニング」、「課題研究」、「志学」LHR等を活用して、3年間を見通した商業教育、キャリア教育等を行う。

イ 資格の取得と技術の習得を勧め、社会人基礎力を身につけさせる

ウ 生徒自らが、挨拶、礼儀、身だしなみ等、規範意識を高める態度を日々の教育活動の中で育む。

エ 生徒自らが、時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立させる。

※進路未決定者を毎年減少させ、進路未決定者ゼロを目標とする。(決定者 R1 97.9% R2 95.0% R3 95.2%)

※R4年度には、遅刻件数一人平均4件未満をめざし、毎年減少させる。(R1 3.6件 R2 4.1件 R3 4.0件)

3 地域の期待に応え、生徒が楽しく、意欲的に学べる環境や取組みの充実した学校をめざす。

(1) 子どもが安心して成長できる安全な社会・学校の実現

ア 生徒が学校中心の生活を送れるような明るく楽しい学校づくりの推進

イ 生徒が健全な学校生活を送るための保健管理と環境美化

ウ 人権教育と支援教育の充実

(2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。

ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。

イ 学校ホームページ、体験授業等を活用し、学校情報発信を積極的に行う。

ウ 令和6年度までに、観光コースにおいて、地域・企業と連携した取組みを2件以上計画・実施する。

(3) 教職員の働き方改革に関する取組みを行う。

ア 委員会の整理・統合をおこない教職員の負担軽減を図る。

イ 教員同士の能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。またICT機器を活用することにより、教材研究の時間の軽減を図る

※学校教育自己診断(生徒)における「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」の肯定率を、R6年度に64%以上をめざし毎年2%引き上げる。

※学校ホームページの更新回数150回をめざし、毎年維持する。(R1 83回 R2 97回 R3 140回)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和4年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒回答】</p> <p>高評価(90%以上)</p> <p>7 文化祭(体育祭、修学旅行)は楽しく行えるよう工夫されている。(91.6%)</p> <p>8 学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している。(90.3%)</p> <p>低評価(60%未満)</p> <p>なし</p> <p>【教職員回答】</p> <p>高評価(90%以上)</p> <p>4 生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。(95.5%)</p> <p>5 いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。(90.9%)</p> <p>7 学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。(97.8%)</p> <p>8 教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。(91.1%)</p> <p>低評価(60%未満)</p> <p>14 この学校では清掃がいきとどいている。(54.3%)</p>	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数値目標に関して、本年度は初年のため本年度を基準に来年度以降の目標を設定してつなげていてもらいたい。 • 商業教育及び観光教育について、より明確に説明できるように整理してもらいたい。 • 1人1台端末の利用方法を整理し、効果的な活用を促進して欲しい。 <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 商業科という学科の特色として、これまで金融教育について学ばれてきたが、消費者教育にも目を向けて学んでいることはこれからの世の中にとっても大切なことであり評価できる。 • 学校アンケートに関して、おおむね7割以上の肯定的な意見であることは評価できる。 • 一人ひとり違う課題を抱えていることに対してサポートできるよう、学校と保護者が協力して動くことができるようになってほしい。

<p>【保護者回答】</p> <p>高評価（80%以上）</p> <p>4 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。（87.4%）</p> <p>6 学校は、子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を養おうとしている。（84.7%）</p> <p>低評価（60%未満）</p> <p>2 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。（59.9%）</p> <p>本校では、今年度初めて学校教育自己診断を実施した。前年度のデータがないので比較はできないが、高評価（肯定的回答 90%以上・保護者のみ 80%以上）・低評価（肯定的回答 60%未満）を基準とし、分析を行った。</p> <p>生徒回答・教職員回答とも学校行事については満足度・達成度が高い。コロナ禍で行事が縮小されるなか、生徒の自主的な運営や教職員が工夫を凝らすことにより充実した活動を行った成果であると考えられる。</p> <p>教職員回答で低評価であった、学校内清掃は来年度の課題として教職員全体で取り組みたい。</p> <p>保護者回答では、おおむね生徒回答と同じ傾向であるが、「授業がわかりやすい」との質問に保護者回答（59.9%）、生徒回答（73%）と乖離している。学校の広報不足であると考えられる。今後、学校の様子等を保護者へ積極的に発信する必要がある。</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校アンケートの評価として、低評価となった項目に関しては分析し、来年度にいかしてほしい。 学校での生徒の活動がもっとホームページなどで見えるようにしてほしい。 ホームページをもう少し見やすくなるように工夫してほしい。 販売実習などが新聞に掲載されるなど学校をアピールすることができているので、来年度以降も続くようにしてほしい。 ICT を利用した授業を増やしていくようにしてほしい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)</p> <p>「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。</p> <p>ア 商業学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践と ICT 機器を活用した授業を融合し、教員同士の能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。また、ICT 機器を活用することにより、教職員の勤務時間の軽減を図る。</p> <p>イ 授業等を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、授業力向上のための、公開授業や校内研究協議を活性化させる。</p>	<p>ア・個々の生徒を尊重し、褒めて伸ばす教育を学校全体に浸透させるために、教職員全員で取り組み、意欲的かつ積極的に学校生活に取り組む生徒が増やすべく活気ある学校づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員が教材研究・授業等に ICT 機器をより一層活用できるように工夫する。 授業アンケート等の結果を踏まえ、教材の精選・授業展開等の工夫を行う。 <p>イ・校内授業見学を実施し各自年度内に3回以上見学させる。また教科ごとの研究授業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> HR・講演会・各種説明会等を通じて、多様化する教育課題を生徒・保護者にも情報提供し、理解を深める。 会議・各種委員会を精選し教員力・授業力の向上をめざす。 	<p>ア・学校教育自己診断（生徒）の「授業は、わかりやすく楽しい」を70%（新規）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（教職員）の「教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」を60%。（新規） 学校教育自己診断（教職員）「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用されている」50%以上。（新規） 学校教育診断（生徒）の「教え方に工夫をしている先生が多い」60%以上。（新規） <p>イ・学校教育自己診断（教職員）「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」80%以上。（新規）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科ごとの研究授業を年度内に各教科1回以上実施する。 学校教育自己診断（教職員）「各種会議が教職員間の意思の疎通や意見交換の場として有効に機能している」70%以上。（新規） 学校教育自己診断（教職員）「校内研修は教育実践に役立つような内容になっている」70%以上。（新規） 	<p>ア・「授業は、わかりやすく楽しい」73%。各教員が授業改善に努めた結果と考えられる。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」75%。研究授業等の実施により授業方法を検討する機会が増えたと考えられる。（◎） 「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用されている」73%。1人1台端末等の利用により教員がICT機器を活用する機会が増えた。（◎） 「教え方に工夫をしている先生が多い」80%。ICT機器、教材や指導方法についての工夫・改善がなされた証左である。（◎） <p>イ・「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」86%。各教科での研究授業及び1人3回以上の授業見学を実施した。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科ごとの研究授業を年度内に各教科1回以上実施できた。特に教科研究授業はICT機器の活用を必須としたことにより多くの教員が参加した。（○） 「各種会議が教職員間の意思の疎通や意見交換の場として有効に機能している」67%。校務連絡会内に情報交換会を加えたが、来年度も改善の必要がある。会議等の効率化・ペーパーレス化の計画をたて来年度実施予定である。（△） 「校内研修は教育実践に役立つような内容になっている」79%。人権・キャリア教育・特別支援教育・ICT活用・コンプライアンスで研修会が実施できた。（○）

<p>2 キャリア教育、商業教育の推進</p>	<p>(1) 商業教育、観光教育・キャリア教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かし、協働し生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。</p> <p>ア 「ライフプランニング」、「課題研究」、「志学」LHR等を活用して、3年間を見通した商業教育、キャリア教育等を行う。</p> <p>イ 資格の取得と技術の習得を勧める。またコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力等のビジネススキルの育成を図り、社会人基礎力を身につけさせる</p> <p>ウ 進路指導部と学年が連携し、キャリア教育、進路相談を充実させる。</p> <p>エ 生徒自らが、時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的な生活習慣を確立させる。</p>	<p>ア・「ライフプランニング」・「課題研究」を中心に体験型学習を取り入れ、3年間を通じてのキャリア教育の充実を図るために内容を精査し、シラバを作成する。</p> <p>イ・能力に応じた級の商業系検定・漢字検定、英語検定を受けるよう、奨励する。 ・「ライフプランニング」・「課題研究」の授業を通してコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の育成を図る。</p> <p>ウ・1年次から「ライフプランニング」を中心としたキャリア教育の充実を図り、進路意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を持って取り組める生徒を育成し、今後3年間で、卒業時の進路未決定者ゼロをめざす。</p> <p>エ・基本的な生活習慣を確立し、特に時間を守る習慣を身につけさせる。また、集団生活におけるルールを守る大切さを理解させ、文化祭・体育祭等の行事や講演会・講習会等を通じて継続的に指導を行う。</p>	<p>ア・シラバスの完成をめざすと共に、学校教育自己診断（生徒）「進路についての情報をよく知らせてくれる」を70%以上とする。（新規）</p> <p>イ・全商簿記検定・全商情報処理検定における3級の取得者を1年次での取得者割合を70%とする。（新規） ・学校教育自己診断（生徒）「自分の考えをまとめ、発表することがある」60%以上。（新規）</p> <p>ウ・進路決定者を95%以上とする。</p> <p>エ・今年度の遅刻件数を一人平均4件未満とする。（昨年度4.0） ・毎朝、正門で朝の挨拶運動をおこなう。</p>	<p>ア・新教育課程、新たなコース制、キャリア教育、体験型学習を実施するためのシラバスを完成することができた。「進路についての情報をよく知らせてくれる」73%。2年生・3年生での進路説明会の実施、1年生のライフプランニングでのキャリア教育の実施の証左である。（○）</p> <p>イ・全商簿記検定・全商情報処理検定における3級の取得者を1年次での取得者割合は66%（△） ・「自分の考えをまとめ、発表することがある」78%。特に1年生ライフプランニングではスピーチ・発表を中心に授業を行っている（◎）</p> <p>ウ・進路決定者は93.3%（△）</p> <p>エ・今年度の遅刻件数は一人平均4.3件（△） ・生徒会・教職員を中心に正門で朝の挨拶運動を実施できた。こころの再生運動から表彰を受けた。（○）</p>
	<p>(2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。</p> <p>ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。</p> <p>イ 学校ホームページ、体験授業等を活用し、学校情報発信を積極的に行う。</p> <p>ウ 観光コースにおいて、地域・企業と連携した取り組みを計画する。</p>	<p>ア・生徒自らが運営する文化祭・体育祭をとおして、すべての生徒が参加できるように工夫をする。リーダーを育成し全員で協力することの大切さや、生徒一人ひとり自らが楽しいと感じる学校作りのために何事に対しても率先して取り組める環境づくりを推進する。また、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるよう、ケース会議・いじめ防止対策委員会・特別支援教育委員会等の会議を定期的に行うことにより、情報共有をおこない、教員がカウンセリングマインドをもって生徒に接することを心掛ける。</p> <p>イ・保健委員を中心に保健活動の活性化を図る環境美化を中心に「保健だより」を年度内10回発行する。</p> <p>ウ・教職員対象の講習会や生徒対象の講演会を開催し、教職員や生徒の人権意識向上を図る。 ・情報モラル教育を充実させ、生徒が自身で判断して行動できる力と態度を養えるよう努める。</p>	<p>ア・学校教育自己診断（生徒）「体育祭・文化祭が楽しく行えるよう工夫されている」75%を以上。（新規） ・学校教育自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」60%以上（新規）</p> <p>イ・学校教育自己診断（教職員）「この学校では、清掃がいきとどいている」60%以上（新規）</p> <p>ウ・人権について教職員対象の講習会や生徒対象の講演会を年1回開催する。 ・情報モラル教育の充実に向け、生徒向け講演会・講習会を年1回以上実施する。</p>	<p>ア・「体育祭・文化祭が楽しく行えるよう工夫されている」92%。生徒会を中心に自主的にまた行事を精査することによってより楽しく工夫がされた。（◎） ・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」74%。SCとの情報交換・研修会の実施の証左である。（○）</p> <p>イ・「この学校では、清掃がいきとどいている」54%。校舎の老朽化に起因する面もあるが、校内美化の意識を醸成する必要がある（△）</p> <p>ウ・人権について教職員対象の講習会や生徒対象の講演会を年4回（拉致問題、性教育、就職差別、ハラスメント）開催できた（◎）。 ・情報モラル教育の充実に向け、生徒向け講演会・講習会を年2回（SNS、ICT活用）実施できた。（○）</p>

大阪府立住吉商業高等学校

<p>3 地域の期待に応え、生徒が楽しく、意欲的に学べる環境や取組みの充実した学校をめざす。</p>	<p>(2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。</p> <p>ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。</p> <p>イ 学校ホームページ、体験授業等を活用し、学校情報発信を積極的に行う。</p> <p>ウ 観光コースにおいて、地域・企業と連携した取組みを計画する。</p> <p>(3) 教職員の働き方改革に関する取組みを行う。</p> <p>ア 委員会の整理・統合をおこない教職員の負担軽減を図る。</p>	<p>・インクルーシブ教育を充実させるための委員会組織の整理とそれに伴う特別支援コーディネーターの拡充を図る。</p> <p>ア・地域企業と連携した名物商品の開発と販売実習を実施する。</p> <p>・課題研究等の授業をとおして地域の観光・文化等を紹介する取組を実施する。</p> <p>イ・学校 HP を充実し、日頃の教育実践を教職員と生徒が積極的かつ効果的に PR する。</p> <p>・魅力ある学校のアピールに努め、中学校への広報活動を充実させる。</p> <p>・中学生対象の各種説明会や体験講座の内容を刷新し、魅力ある学校づくりをアピールし、広報活動の充実を図る。</p> <p>ウ・地域・企業に呼びかけ、今年度中に令和5年度2年次生が取り組める企画を計画する。</p> <p>ア・各委員会で業務内容の見直しを行う。</p>	<p>・委員会組織を整理し、組織としてインクルーシブ教育に対応し、「ともに学び、ともに育つ」教育を実践するための研修会を年1回実施する。</p> <p>ア・地域企業と連携し商品、パッケージの開発や販売実習をおこなう。</p> <p>・フィールドワークをおこない、地域の観光・文化を中心とした発表をおこなう</p> <p>イ・学校 HP の更新回数 150 回をめざす。(昨年度 140 回)</p> <p>・教員の中学校訪問回数を合計 200 回以上となるよう努める。</p> <p>・体験会・説明会の実施を4回以上とし、参加生徒等を延べ 300 人以上をめざす。</p> <p>ウ・地域・企業との取組みのための校内担当者会議を月に1回開催する。</p> <p>ア・今年度、委員会を1つ以上、整理・統合する</p>	<p>・委員会組織を整理し、組織としてインクルーシブ教育に対応し、「ともに学び、ともに育つ」教育を実践するための研修会を年2回(SCと連携)実施できた。(○)</p> <p>ア・地域企業と連携し商品、パッケージの開発や販売実習(7月、12月、1月)をできた。(○)</p> <p>・フィールドワークをおこない、地域タウン誌を作成し発表した。(○)</p> <p>イ・学校 HP の更新回数は 175 回であった。(○)</p> <p>・教員の中学校訪問回数は合計 233 回であった。(○)</p> <p>・体験会・説明会を5回実施した。参加生徒等は延べ 359 人であった。</p> <p>体験会 8/23,11/12,1/14 説明会 12/17,2/18 (◎)</p> <p>ウ・地域・企業との取組みのための校内担当者会議を月に1回開催できた。地域・企業との連携事業は、17 事業であった。授業での外部講師の招聘、地域ウォールアート、水道局等と連携してのマイペットボトルの取組み、観光コース開設を見据えた南海電車との連携など、例年になく充実したものとなった。(◎)</p> <p>ア・制服委員会を廃止した。(○)</p>
--	--	--	---	--